

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800070
法人名	社会福祉法人 全和会
事業所名	グループホーム 鮎田
所在地	福岡県飯塚市鮎田1522-1
自己評価作成日	平成25年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年12月12日	評価結果確定日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人らしい本来の姿で気兼ねのない暮らし、生活が出来るように職員全員が、本人、家族との関わり合いを持てる支援に取り組んでいます。また、職員の特技や能力を活かして食事作りや庭の野菜作りなど、和やかな雰囲気を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム 鮎田は、国道200号線バイパス沿いに位置し、自然も多く残る周辺環境の中にある。木造平屋建て1ユニットのゆとりある生活空間では、周辺の木々の彩の変化や実りの様子を眺めながら過ごすことが出来る。また、経験豊富なベテラン職員が多いことから、安心感や安定感が伝わり、普段着のまま過ごせる、家庭的な雰囲気が伝わってくる。運営推進会議は、出席者より忌憚のない意見や助言を頂き、対応状況についても報告書を作成する等、意義のある開催を目指していることが議事録から確認できる。また、家族が来訪する機会や行事への参加率も高く、家族機能や関係性を大切に捉えている。今後も、家族や地域との連携を活かしながら、日常の活性化や個性あるケアの実践、地域の中での存在の高まりが大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の 関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの現場の思いを統合した、実現可能な内容となっているので職員全員が、日々の実践に活かしている。	法人理念のもとに、事業所としての目標を具体的に作成し、共用空間に掲示している。日常のケアの原点として位置付けながら、会議やカンファレンスの際に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域行事等の案内を受けるが、時間の都合上参加がなかなか難しい状態であるが、ホームの行事には近所の方の参加や協力もあり、利用者の方への面会など地域の方との交流の機会が増えている。	自治会に加入し、回覧板により地域情報を共有している。事業所の行事(夏祭り・クリスマス会・餅つき)を地域にも案内し、また、民生委員の方より情報提供やアドバイスを受けながら、地域との交流機会の拡大に向けて働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣からの入所者の方も多いため、家族の来訪や近隣の友人の来訪があり地域の方とのつながりが日々の実践に活かされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催して、ホームの運営状況の報告に留まらず積極的な意見の交換の場として活用されている。災害対策等地域と密着した会議となっている。	運営推進会議は、自治会長、民生委員、市職員の出席を得て定期開催されており、時折、入居者の参加を得る機会もある。議事録や状況報告書には、参加者の要望や助言等のコメントや対応状況について記載されている。自治会長より地域情報の案内、民生委員より歩行訓練の重要性について助言を得る等、内容は充実している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員や市役所担当者との連携を行い、施設運営についての助言や問題点の指摘を受けたり、協力関係を築くよう取り組みを行っている。	運営推進会議や地域密着型サービス連絡協議会での活動を通じて、行政担当者より助言や情報提供を受けている。また、ケースワーカーの方との情報共有にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関が国道沿いに位置しており交通量も多い為事故防止の為、職員が手薄になる時間帯はやむを得ず施錠を行っている。利用者、家族、地域の方には説明を行い理解を頂いているが、身体拘束や虐待防止に関する職員の理解と認識を高める為、内部研修を行っている。	マニュアルをもとに内部での研修を実施し、禁止の対象となる具体的な行為や身体拘束による弊害等についてあらためて理解し、安全対策とのバランスや車椅子の使用法等について、意見交換が行われている。医師との連携を図り、運営推進会議の中で議題としても取り上げながら、共有認識を図るよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会や研修で学んだ事を日々の実践の中で活かし、防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が制度の理解を高めており、家族、来訪者へのパンフレット等を回覧できるようにしている。	権利擁護に関する制度については、入居の際の説明や資料を整備する等、情報提供の機会を確保している。これまでの活用実績もあり、今後も継続して学ぶ機会の確保に努めていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の方が理解、納得して頂けるように、契約終了の前に十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の方の面会が多く、もしくは利用料の支払いの際に意見や要望が気軽に話せるように声掛けを行い、出された意見等については随時話し合い、運営に反映できるように努めている。	毎月の支払い時等、家族が来訪する機会も多く、夏祭り等の行事への参加率も高い。家族とのコミュニケーションを重ねながら、意見や要望の収集や、表出しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催して、職員の意見や提案を聞く機会を設けて、随時検討、話し合いを行って運営に反映できるように実践している。	職員全員参加を基本とする月例会議を開催しており、議事録から、業務改善等について意見交換が行われていることが確認出来、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じた勤務状況を把握して、個々人がやりがいを見つけ、向上心をもてるような職場環境、条件整備に努める。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようになっている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は問わないが、勤務内容によっては話し合いとなることもある。また職員についても自主的に研修や資格習得の希望があれば、事業所側も積極的に受け入れ体制を取るよう配慮している。	常勤採用を基本とし、40代から70代までの男女職員が勤務している。職員体制は安定しており、各職員が外部研修に参加できるよう配慮し、出勤扱いとする等、個別のスキルアップを促している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育に関する内部研修の充実に取り組んでおり、倫理規定や高齢者虐待防止、身体拘束について学ぶ機会を設けている。認知症ケアの理解についても研修計画に盛り込んでおり、職員全員が、日常現場の中で利用者に対する人権尊重を心かけている。	尊厳や倫理・法令遵守、高齢者虐待防止、プライバシー保護、認知症ケア等、年間計画の中で内部研修を実施し、入居者の人権尊重について、意識を高めるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力、勤務状況を把握し、毎日の勤務の中で、職員のスキルアップを図っており、現場を重視した、働きながらのトレーニングを進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのグループホームとの交流や他事業所の連絡協議会などに参加して、互いのサービスの質の向上を高めるよう取り組みを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談して不安や要望等を伺い、施設での生活に馴染んでもらえるよう行事などに参加して頂いたり安心して生活出来るように信頼関係の構築に努める。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学、面談を行い家族等の不安、要望を伺い、十分な説明を行い施設での生活が安心して送れるように家族との信頼関係の構築に努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等との面談により状況や要望などを把握し、本人、家族が必要とする支援を努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年培ってきた個々人の人生、経験に基きその人らしく暮らせる場所として又、人生の先輩として職員も共に学び共有できる関係を築いていく。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族との在宅生活での絆を大切にしながら助言、情報を交換して本人、家族を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの馴染みや住み慣れた家との交流が途切れないよう外部からの訪問、外出など常時オープンに対応できるような支援に努めている。	近隣から入居されている方も多く、家族が来訪する機会や自宅に立ち寄る機会も多い。日常の中で、馴染みの場所等について話し、ドライブがてら出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人の性格等を把握して利用者同士の間に職員がさりげなく関わり、お互いに無理のないような関係が保てるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約終了後も必要に応じて経過を伺ったり、亡くなられた方の家族に対しても相談、支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の希望や意向の把握に努めている。本人、職員間に偏らず家族等の協力も重要である。入所前の本人の生活歴、趣味嗜好などの情報収集等にも努める。	センター方式も活用しながら、丁寧に情報収集が行われている。また、介護記録には、発言や心情の変化がわかりやすく記載され、職員間で共有しながら思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族等に面談してアセスメントを作成し、また他の事業所等より情報提供を受けて、生活環境や疾病等の把握を行い、本人の長年の生活歴を壊さないように努める。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の言動、行動の観察を行い、小さな変化を見逃さないように一人ひとりの状況の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の要望を伺い、担当職員を交えた担当者会議を行い介護計画書の作成を行っている。又必要があればかかりつけ医の助言、意見等を聞き介護計画に反映している。	本人、家族の意向を確認し、医師の意見等を踏まえ、各担当者を中心としてカンファレンスを実施している。バイタル表の上部に短期目標を記載する等、実践に結びつけるよう取り組んでいる。	本人、家族の役割や、アセスメントを根拠とする具体的な生活リハビリ等を介護計画の中に位置付けながら、日々の実践やモニタリングの効果的活用へと結び付けていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践の中で、気づきや疑問に対してその都度朝の申し送り検討し、介護計画の見直しを行い実践へ反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のケアプランに支援が主だが、個人の状況、状況は日々変化している為、その時々に対応出来るように努めて支援を行いたい。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の家族、知人の方々との交流の中で、昔ながらの畑の作り方など一緒に考え、作業をしたりと生き甲斐を感じ楽しむことができる環境を今後も維持出来るように支援を行いたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望される医療機関への受診を支援している。又殆どの利用者が在宅医療総合管理を希望されて、月2回の内科医の訪問診療を受けられて日頃の健康管理をかかりつけ医と連携をとっている。	入居時に、かかりつけ医について確認し、家族との連携による受診や訪問診療が実施されている。また、複数の協力医療機関との連携を図り、月2回の訪問診療体制も整備されており、適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、利用者の言動、行動の異変に気づいたときには、速やかにかかりつけ医の看護師に連絡を行い対応出来るように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が、入院又は、見込みがある際は、かかりつけ医と入院先の病院関係者との情報交換を密にし 本人、家族が安心して治療に専念できるように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一昨年施設で初めての看取りを職員全員が、経験した事で、職員の自信につながり又、本人、家族等との信頼関係も深まる。今後、地域、医療関係者と共に支援に取り組んでいきたい。	入居時に、医療との連携体制や、重度化や終末期に向けた意向を確認している。また、状況の変化やアセスメントを実施する中で、その都度、意向の把握に努めている。これまでに看取りを行った実績もあり、家族や医療機関、職員との話し合いを重ねながら、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、職員全員が把握、内部研修等で訓練を行い実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の自衛消防訓練を実施している。運営推進会議等で地域の方々にも協力、参加の声をかけをしている。又、日々の勤務の中で常に緊急時に対する緊張感をもつ事を意識している。	年に4回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、入居者全員が参加している。年に1回は消防署の指導を受けている。運営推進会議の中で、災害時の相互協力を働きかけている。地域の避難場所である公民館は、水害時の対応には不安も残るため、当事業所の活用についても提案している。備蓄品が準備されている。	運営推進会議の中で、継続して地域への働きかけを行っている。実際に訓練時に連携を確認する機会を持つ等、今後も働きかけを予定している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、特に声かけや対応には、十分注意をはらっている。個人情報に関しては、事務所に保管、管理をしている。又、プライバシーに配慮した対応に努める。	年間計画の中で、尊厳や自己決定の尊重、個人情報保護について研修を実施し、職員の意識を高めるよう取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、利用者との関わりで、自立できる部分を引き出し、何をしたいのか、本人の思いや希望を素直に話せるように働きかけ支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長年暮らしてきた生活ペースを出来る限り崩さないように一人ひとりに添ったリズムを保てるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣服の調整を行い、自己決定出来る利用者には本人の好みに選んで頂く。又、散髪等も無理強いしないが、定期的に施設で行い、本人の行きつけの店があれば家族等と相談し支援できるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや、味見を職員と一緒にしたり、食前食後の手伝いを積極的にして下さる。又、一人ひとりの食べたい物を聞き、献立のなかに取り入れ喜ばれ、食欲が増すように工夫している。	嗜好やバランス、季節感、形態等に細やかな配慮が行われ、温かい食事を提供している。時には仕出し弁当をとったり、少人数で焼肉を食べに出かける等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を主にした内容で、栄養バランスも考え、一人ひとりにあった摂取量又、その時の状態によって内容を変えていくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアの声かけ、見守り介助のいる方は介助を行い、口腔内、義歯の状態の確認をして清潔保持に努める。又、週一回の訪問歯科の際、口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員が、把握し、声かけ誘導を行いその際自尊心を傷つけたり気分を損なわないようにしている。又、夜間のパンツと交換時は、睡眠の妨げにならないよう速やかに行う。	排泄チェック表を用い、個別の状況やパターンの把握に努めている。カンファレンスでは、必要な支援についてや、BPSDとの関連について検討しながら、必要な支援を見極めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの利用者が、緩下剤を服用されており日々、調整している。日頃から食事の内容、水分の摂取量に気をつける。又、日中に軽い体操やレクリエーションなどで身体を動かしたりと工夫に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っており利用者の体調や希望に合わせて支援している。入浴を拒否される方にも無理強いをしないようにしている。又、日頃見えない部分の身体の観察も行い変化があれば、すぐに対応するように努める。	週3回の入浴スケジュールは設定しているが、シャワー浴や足浴、部分浴等も含め、個別の希望や状況、体調等に合わせ、柔軟な対応に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせて職員が、声かけ、見守りを行う。毎食後に休まれる方もおられたり半日眠ると気分が良くなったりと、その時々状況、状態に合わせて安心してできるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、利用者全員の服薬内容を把握、理解しており変化があれば、すふにかかりつけ医師に報告し、状態の変化の確認に努める。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の性格や生活歴を把握し、その人らしい楽しみを提供する。けして無理強いをせず、その時々に合わせてやりがいや喜びを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、施設の周りを職員と一緒に散歩したり季節ごとの花を見にドライブに行ったりと、出来る限り戸外に出れるように支援している。又、帰宅願望が激しくなると家族と相談し日帰りや一泊で自宅へ帰られたりと家族の方々にも協力していただき支援に努める。	季節に応じて、庭でのラジオ体操や草取り、周辺の散歩等、戸外に出る機会を持っている。全体行事としては、季節の花見等に出かけている。個別や少人数にて、外食やショッピングセンターでの買い物に出掛ける機会がある。運営推進会議の中で、民生委員の方より、歩行訓練の重要性について助言を得ている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者が、お金を持つ事が不可能である。施設が、預かり金として管理し、本人の必要に応じて手渡しする事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の必要に応じた対応をしている。家族の方々から電話がある時は、本人と代わり気兼ねなく話が出来よう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けのある食堂兼居間が、開放的な共有空間である。台所から食欲をそそる美味しそうな匂いがして食事の時間を身体で感じる。又、穏やかな音楽など流れて心地良い午後のひと時を過ごせる空間です。季節を感じさせる掲示板の内容等の工夫をしている。	天井の高いリビングは開口部も大きくとられ、木の温もりと開放的な印象を受ける。周辺の木々の彩の変化や実りの様子を眺めることが出来、また、敷地内には、クリスマスネオンや門松等が飾られている。室内装飾は、毎月レイアウト等を変更し、行事の写真や季節感の演出が施されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで居眠りする方、傍らでは、テレビを見られる方、気の合ったもの同士お喋りをしたりとそれぞれが、自由に過ごせるよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の今までの生活の中で、慣れ親しんだ物や好みその人に合った環境づくりを支援するよう努める。	全室フローリングの居室には、洗面台が設けられている。畳や絨毯が敷かれ、個別の状況に配慮されている居室もある。全体的にはシンプルな居室が多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴、出来る限り自力で出来るように施設内外の環境整備に努め、自立心を無くさず安全かつ安心して生活が出来よう工夫に努める。		